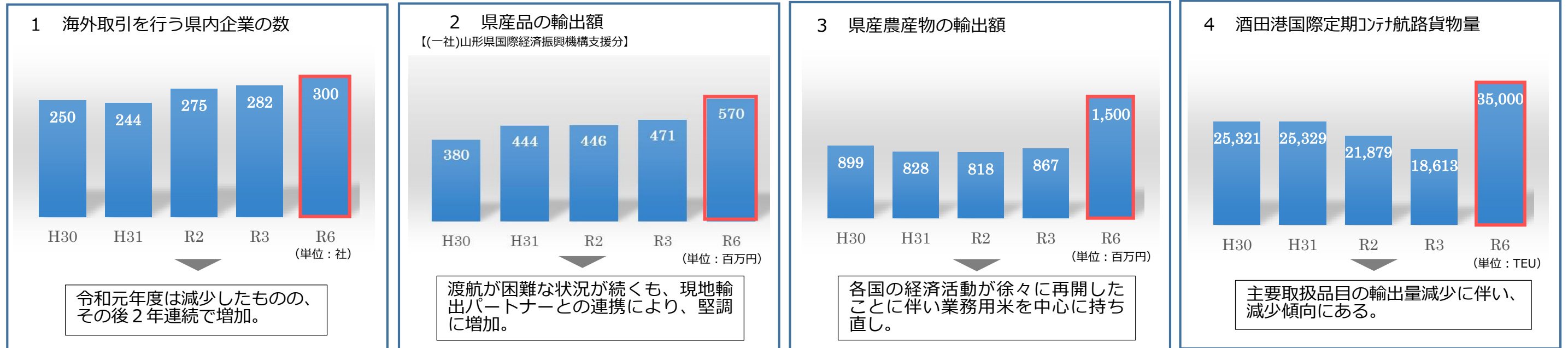


「本県産業の発展に向けた貿易振興」の施策の展開について

1 コロナ禍における目標指標等の推移（平成 30 年度→令和 3 年度）



2 令和 3 年度国際戦略検証委員会における取組み方向

➤ デジタルシフトの流れを活用した取組みの強化（オンライン商談の活用、県内事業者の越境 EC への取組支援等）

➤ 制限解除後のリアル活動の再開（新規商品の販売プロモーション、輸出パートナーの発掘等）

➤ 荷主企業の酒田港への定着・貨物量増加

3 令和 4 年度の主な取組みと課題（○：主な取組み ■：課題）

- (一社)山形県国際経済振興機構において、本年度より、輸出に取り組む県内工芸品事業者の事業者情報・商品情報を掲載したポータルサイト（英語対応）を新たに開設。また、越境 EC への出展等に係る会員向け費用助成を引き続き実施
- 本年 2 月～3 月、越境 EC の自社サイト等を有する海外バイヤー 2 社（対象国：英国・米国・カナダ・フランス・ドイツ・香港）を招へいし、デザイン産品・日用品等の商談会を開催
- 越境 EC 市場への参入に課題意識を有する県内事業者も多く、個々のニーズに丁寧に対応していくことが必要

- 台湾、中国、香港、韓国、タイ、マレーシア、フィリピンの高級スーパー等で、県産農産物・加工食品・日本酒等の販売プロモーションを実施
- 米国における県産米や山形牛等の業務用販路開拓に向けたプロモーションの実施
- 台湾、香港、シンガポール、タイ等のバイヤーを招へいし、産地訪問や商談等を実施
- コロナ禍の影響により商談会が延期・縮小された国も存在

- 県、酒田市及び関係機関で構成する"プロスパーポートさかた"ポートセールス協議会において、酒田港の利用割合が低い県内陸部や大口荷主等、ターゲットを明確にしたポートセールスを官民一体で展開
- 国際定期コンテナ航路の新規荷主や継続荷主等を対象として、貨物量に応じた助成を実施
- 主要取扱品目の輸出量が、輸出先国の消費動向の変化などの影響により減少したこと等に伴い、国際定期コンテナ航路の取扱貨物量が減少傾向

4 令和 5 年度の主な取組み（予定）

・ 越境 EC サイト等を有する海外バイヤーとの商談会の継続開催や、(一社)山形県国際経済振興機構の助成制度の利用拡大等を通じて、ICT を活用した県産品の海外販路拡大を推進

・ リアルとオンライン双方の利点を効果的に活用しつつ、商談会の開催や販売プロモーションを実施

・ 外食需要の回復・拡大を捉えた県産農産物等の業務用販路の開拓・拡大

・ 荷主企業が抱えるニーズの収集・分析を通じて積極的・戦略的なポートセールスを展開

・ 新たな助成制度の実施により、国際定期コンテナ航路の新規基幹貨物を創出